

今週のビルマのニュース 2009年12月4日【0945号】

国連総会での核廃絶決議、ビルマは棄権

・日本などが提出していた核兵器廃絶決議が2日、国連総会の本会議で採択された（国連加盟国192か国のうち171か国が賛成）。インドと北朝鮮の2か国が反対し、ビルマや中国、フランス、パキスタンなど8か国が棄権した。同様の決議採択は16年連続だが、法的拘束力はない（2日日経）。ビルマは先月、国連総会第1委員会でも採択された際にも棄権した。

ガンバリ国連総長特別顧問、ダルフル担当に

・国連事務総長は2日、ビルマ問題を担当するガンバリ事務総長特別顧問を、来月1日付でダルフル地方に展開する国連・アフリカ連合の合同平和維持部隊（UNAMID）特別代表に任命した。今後、後任のビルマ担当者が選ばれる（3日読売ほか）。これまでに複数の国連特使が40回ビルマを訪れてきたが、民主化や人権状況の改善にはつながっていない。民主化支援団体等は「国連事務総長は特使外交に見切りをつけ、自らが軍政に働きかけるべき」と述べる。

英議会議員、人道に対する罪の調査を要請

・英国の超党派のビルマ民主化議連（APPGビルマ）は26日、ビルマの紛争地域で起きている人道に対する罪についての調査委員会の設立を国連に働きかけることを政府に求める早朝動議を提出した（26日英国ビルマ・キャンペーン）。タイ・ビルマ国境支援協会（TBBC）によれば、ビルマ東部では1996年以来、3500以上の村や集落が軍政により破壊された。同地域では、この1年間だけでも7万5,000人が家を追われ、50万人以上が今も国内避難民となっている。TBBCはこの状況を、ダルフルの状況にも匹敵すると述べている（10月29日TBBC）。

ノーベル賞経済学者のスティグリッツ氏がビルマへ

・ノーベル経済学賞受賞者で元世銀首席エコノミストのジョセフ・スティグリッツ氏が14日からビルマを訪れることが明らかになった。農村経済の発展や貧困削減のために取るべき経済政策について講演し、農業相や国家開発相と会談する。ビルマ中央部の乾燥地帯の視察も行う可能性がある（30日IPS）。

環境問題について話した教師が国外追放される

・最大都市ラングーンのアメリカーン・センター職員で英語教師の米国人が28日、国外退去させられた。詳細は不明だが、マンダレーの米領事館で環境問

題についての講演を行った帰りに拘束され、空港に連行されたとのこと（3日イラワディ）。

ミンコーナイン氏ら政治囚が診療を受けられず

・アムネスティ・インターナショナルによれば、2007年8～9月のデモ行進を率いた僧侶のガンピラ師（禁固刑63年で服役中）や、民主化団体「88世代学生グループ」指導者の一人ミンコーナイン氏（同、65年）ら3人の政治囚の健康状態が悪く、緊急に治療が必要（3日アムネスティ緊急行動要請）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

今週の発表はなし

政治囚の数（12月2日現在）2,173人

・政治囚支援協会（AAPP）によれば、12月2日現在の政治囚の数は2,173人。10月には41人が逮捕され、そのうち3人が解放された。2009年8～9月のデモ以来、1,156人が逮捕され現在も収容中。

イベント情報

・在日ビルマ人共同行動実行委員会ほか 国連事務総長に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、11月30～4日15～16時）

・世界人権デー アクション：世界中のすべての人々に“人権”と“自由”を！呼びかけ団体：在日ビルマ人のみなさん、（社）アムネスティ・インターナショナル日本、ヒューマンライツ・ナウ、ビルマ市民フォーラム（国連大学前、10日15～17時）

・在日ビルマ難民たすけあいの会ワークショップ 第二回「在日ビルマ難民の労働と家族」（南大塚地域文化創造館第一会議室、13日14時～）★要申込

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165